

昭和三十一年、人がなくて困っているから人の見つかるまでということでは家庭から再び教職に戻ったのが幼稚園教諭養成の場であった。

子どもを大勢育てていることの他は何の経験も勉強もしていない私は、堀田若草幼稚園の御厚意で幼稚園を知る場として通い、人のないまま二年、三年と過ごした。お茶の水大学に夏季講座のあること、田研にあることなど知ってここでもいろいろと御教えを受けた。そして何時の間にか十年を過ごした。

過去学んだことを土台に、幼児に対する夢はだんだんと広がりをもち、子どもたちと対する毎日は今より早く過ぎた。その間子どもたちはいろいろのことを教えてくれた。それ故、今回頂いた倉橋賞は私の場合は子どもたちに頂いたものとする思えるのである。それらの尊い言葉なき教えの数々が、私の拙い言葉であやまって取られ、また幼児が音楽のため苦し

んだり、ゆがめられることのないようにと祈るのである。

既に何十年前教職を去った私にとって

倉橋賞を受けて



清水美代子

は、現在の仕事は余生の仕事とも思えるのである。その場でせめて私は悔のない仕事がしたい。

倉橋先生の持たれた幼児への御愛情にもとるようなことはしたくない。倉橋賞を頂いてやっと幼児教育の仕事についてよいと御許しを得たような気もする。とにかく自重したい。

音楽とか絵画は祈りに似たものだと思う。この営みの中で多くの人が苦しみを忘れ、自分を忘れてひたすらの思いで、とけこむいく時はこれに通じる。幼児の時代に、その喜びを身につけさせたいと思う。しかしこれは、正しくよりよい表現のできることに、喜びの満たされることを考えると、このみづめ方の大事さを思わずにられない。

私は幼い頃から音楽や絵を通して多くの方から温かい愛情で育てられた。これから先の何年か、倉橋先生の御加護により道をあやまることなく、多くのこれらの愛情を保育者養成の仕事に精進することによって報いたい。

(昭和四十二年度)